

《地球圏科学専攻 博士課程後期》

令和6年度4月入学生を募集する専修部門と主指導教員及び主な研究内容

専修部門	主指導教員	主な研究内容
地球環境物理学	教授 博士(理学) 高島 久洋	地球規模・地域規模の大気科学
	教授 博士(理学) 林 政彦	地球規模の大気環境変動の研究
地球流体力学	教授 博士(理学) 岩山 隆寛	地球および惑星における流体現象の理論的研究
	教授 博士(理学) 西 憲敬	対流圏における大気現象の研究
水圏物質化学	未 定	—
地球変動科学	教授 学術博士 上野 勝美	古生代有孔虫類の分類, 生層序, 古生物地理と東アジアの構造発達史
	教授 博士(理学) 柴田 智郎	地殻流体の成因や流動に関する研究
	教授 博士(理学) 三好 雅也	沈み込み帯における物質循環とマグマの成因の研究
適応構造生物学	教授 博士(理学) 中川 裕之	生体組織の形成過程における細胞運動の役割の研究
適応機能生物学	未 定	—

授業科目, 単位, 担当者及び履修方法, 主な研究内容 (令和5年度現在)

※令和5年度開講科目は, シラバス(授業内容含む)をWebで公開しております。「電子シラバス 福岡大学」で検索の上, 参照ください。

研究指導科目

専修部門	授業科目	単位数	担当者	主な研究内容
地球環境物理学	(第1年次) 地球環境物理学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(理学) 高島 久洋	地球規模・地域規模の大気科学
	地球環境物理学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 地球環境物理学特別研究Ⅲ	2	教授 博士(理学) 林 政彦	地球規模の大気環境変動の研究
	地球環境物理学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 地球環境物理学特別研究Ⅴ	2		
	地球環境物理学特別研究Ⅵ	2		
地球流体力学	(第1年次) 地球流体力学特別研究Ⅰ	2	教授 博士(理学) 岩山 隆寛	地球および惑星における流体現象の理論的研究
	地球流体力学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 地球流体力学特別研究Ⅲ	2	教授 博士(理学) 西 憲敬	対流圏における大気現象の研究
	地球流体力学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 地球流体力学特別研究Ⅴ	2		
	地球流体力学特別研究Ⅵ	2		
水圏物質化学	(第1年次) 水圏物質化学特別研究Ⅰ	2	未 定	—
	水圏物質化学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 水圏物質化学特別研究Ⅲ	2		
	水圏物質化学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 水圏物質化学特別研究Ⅴ	2		
	水圏物質化学特別研究Ⅵ	2		

地球変動科学	(第1年次) 地球変動科学特別研究Ⅰ	2	教 授 学術博士 上野 勝美	古生代有孔虫類の分類, 生層序, 古生物地理と東アジアの構造発達史
	地球変動科学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 地球変動科学特別研究Ⅲ	2	教 授 博士(理学) 柴田 智郎	地殻流体の成因や流動に関する研究
	地球変動科学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 地球変動科学特別研究Ⅴ	2	教 授 博士(理学) 三好 雅也	沈み込み帯における物質循環とマグマの成因の研究
	地球変動科学特別研究Ⅵ	2		
適応構造生物学	(第1年次) 適応構造生物学特別研究Ⅰ	2	教 授 博士(理学) 中川 裕之	生体組織の形成過程における細胞運動の役割の研究
	適応構造生物学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 適応構造生物学特別研究Ⅲ	2		
	適応構造生物学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 適応構造生物学特別研究Ⅴ	2		
	適応構造生物学特別研究Ⅵ	2		
適応機能生物学	(第1年次) 適応機能生物学特別研究Ⅰ	2	未 定	—
	適応機能生物学特別研究Ⅱ	2		
	(第2年次) 適応機能生物学特別研究Ⅲ	2		
	適応機能生物学特別研究Ⅳ	2		
	(第3年次) 適応機能生物学特別研究Ⅴ	2		
	適応機能生物学特別研究Ⅵ	2		

特修科目

部 門	授 業 科 目	単位数
非 専 修	地球圏科学特修講義Ⅰ	2
	地球圏科学特修講義Ⅱ	

- 1 学生は、研究指導科目のうちから1専修部門を選定し、これをその学生の専修科目とする。
- 2 学生は、専修科目担当者のうちの1人を主指導教員とし、専修科目及び学位論文の作成、その他研究一般についてその指導を受けるものとする。
- 3 前項のほか、学生は、主指導教員が定めた副指導教員の指導も受けるものとする。
- 4 学生の標準修業年限は3年とし、所定の授業科目のうちから、研究指導科目12単位、特修科目4単位以上、合計16単位以上を修得しなければならない。
- 5 前項の規定にかかわらず、優れた研究業績を上げた学生については、1年以上在学し、かつ、当該学生の在学期間に応じた所定の研究指導科目の単位数及び特修科目4単位以上を修得すれば足りるものとする。
- 6 主指導教員が必要と認めた場合は、他の専攻又は研究科の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。
- 7 学生は、主指導教員を主査として、専修科目について博士の学位論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。